

古賀良生(編)

「変形性膝関節症—病態と保存療法」

林 義孝

(大阪府立大学総合リハビリテーション学部教授)

本書を手にして読みはじめますと、専門書でありながらワクワクする思いにかられ、時間を忘れてページを重ねてしまうほど、完成度の高い成書といえます。

その理由は、序文で、編集者である古賀氏(整形外科医)が、「病態認識のための疫学調査と、生体力学的検討の理解を基盤とした」と、本書の特徴を明示しているように、内容の焦点が絞られていることで、多くの読者に納得していただけることでしょう。

本書は、膝関節疾患の外科手術書を目指しているのでもなければ、怪しげな即物的治療法の紹介などに見向きもすることなく、科学的検討と臨床的視点で、変形性膝関節症の基礎から最新の臨床に至る確かな知識が体系的に解説されており、この疾患についての理解と、新たな関心を抱かせるに十分な内容を提供してくれています。

とりわけ、変形性膝関節症について、28年間の長期にわたる地域住民の疫学調査結果を基盤にした病態分析は、「調査すれども治療に活かされず」の揶揄を打ち砕き、みごとに臨床応用への基盤につながっ

ています。この調査結果は、わが国で、約1千万人といわれる変形性膝関節症患者を前にして、理学療法士が運動療法や日常生活動作指導プログラムの新たな開発に取り組む際、貴重な示唆を与えてくれることでしょう。

また、「本書は、私たち理学療法士のために書かれたものである」と、つい思い込んでしまいそうなほど、足底板を含む装具療法、物理療法、理学療法に至る保存療法について、実践的で幅広い解説が豊富に述べられています。なかでも、運動療法の実際についての解説は、変形性膝関節症に長年にわたって取り組んできた医療チームの一員として、その臨床的感性を鍛え上げてきた理学療法士の、「治療効果を上げることこそ患者への最大のサービスである」という心意気が伝わってきそうです。さらに、カラー写真や3次元画像、理解しやすい統計データなどを大いに駆使していることも、他に類を見ない充実した内容の専門書として、読者の期待に応えてくれています。

本書を学ぶことで、最も多くの知的恩恵を得ることができるのは、日々臨床の場で変形性膝関節症の治療に取り組む理学療法士と、それを目指して理学療法士養成校で学ぶ学生諸君ではないでしょうか。

●B5判 198頁

定価 7,875 円(本体 7500 円+税 5%)

2008 年 南江堂・刊